区政会館だより

No.330
平成29年9月

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

全国につながる
連携の一輪

中野区

毎年9月上旬に中野区役所前広場で開催している「なかの里・まちマルシェ」

中野を経済交流の拠点とした太い連携

江戸川区

例年、多くの人たちでにぎわう「江戸川区民まつり」のフレンド広場

子どもが架け橋となる自治体間連携

常陸太田市から新鮮な野菜を運んだ高速バス。中央であいさつするのが田中大輔中野区長

全国につながる
連携の輪 中野区

中野を経済交流の拠点とした太い連携

地方都市では過疎化による人口減少・後継者不足や地場産業の衰退といった問題に直面している一方、大都市では人口過密や環境問題、自然と触れ合う機会の減少といった課題を抱えています。そこで、両者のお互いの強みを生かして弱みを補い合い、課題を解決しようという取り組みが、中野区で始まっています。中野区は「なかの里・まち連携事業」を通じて、福島県喜多方市、茨城県常陸太田市、群馬県みなかみ町、千葉県館山市、山梨県甲州市の5自治体と連携しています。

住民同士が顔の見える関係を構築する

朝採れ野菜を運ぶ直行バス

茨城交通株式会社の高速バスは、常陸太田市から新宿まで約3時間で結んでいます。朝、常陸太田市内の車庫を出発した高速バスは「道の駅ひたちおおた」で、地元で朝採れたばかりの新鮮な野菜や果物をトランクに積みます。乗客と採れたて野菜などを乗せた高速バスは新宿で乗客を降ろした後、中野区内の車庫に向かいます。トランクに乗せた新鮮な野菜や果物は、午後には中野区内のスーパーなどの店頭に並びます。

こうして中野区民は常陸太田の産地で採れた新鮮な野菜などを、その日のうちに食べることができます。生産者と消費者を結ぶこの取り組みは、昨年8月に始まりました。

常陸太田市と中野区は、「なかの里・まち連携事業」で連携しています。中野区は2009（平成21）年3月に喜多方市、常陸太田市、館山市、甲州市、2012（平成24）年9月にみなかみ町と、「なかの里・まち連携宣言」を行いました。

連携宣言では「まち（都市）と里（地方）が距離を超えて手をつなぎ合い、住民同士、顔の見える関係を作り出し、新しい形のコミュニティーを形成することで、地域本来の魅力や豊かな資産を生かし合い、補い合って、互いに住民がよりよく生きられる地域に生まれ変わることができるのではないか」と述べています。

連携事業は、①人を結ぶ観光・体験交流②暮らしを結ぶ経済交流③自然を守る環境交流――の３本柱。常陸太田市から新鮮な野菜などを高速バスで中野区内に直送する取り組みは、②に当たります。

中野区は、地方の生産者と区内の商店街やスーパーをつなぐビジネスマッチングの役割を担っています。

毎年９月上旬に区役所前広場で開催している「なかの里・まちマルシェ」は、五つの連携自治体の様々な特産品が日替わりで集合する物産展です。

こうしたイベントだけでなく、区内各所で日常的に連携自治体の特産品に出会える機会が提供されるよう、生産者と区内事業者相互の経済交流を促進させるため、交流会も実施しています。

区がふるさとづくりをお手伝い

中野区都市政策推進室（都市観光・地域活性化分野）では、中野区内の町会・自治会、地区委員会、日本赤十字社、ＰＴＡ、老人クラブなどの地域団体に、〝ふるさとづくりのオーダー受けます！〟と呼び掛けるチラシを配布しています。

区民と地方都市の人たちが交流を深め、顔の見える関係を作っていくためには、まずお互いの土地を作り、人を知ることが大切です。そこで、中野区がそうした体験交流のお手伝いをしています。

「専用の田んぼを借りて、みんなで米作り体験」「農家に民泊して、農業体験」…中野区の担当者が連携自治体の担当者と調整し、それぞれの旅行目的に合った現地情報を提供してくれます。

連携自治体側が受け身ではなく、アピールに熱心であることも、この連携事業の特徴です。

甲州市は、全国屈指のぶどうとワインのまち。個性豊かなワイナリーは30社以上もあり、そこで醸造されたワインは、中野区の酒屋で買うことができます。甲州市の生産者は、区内の酒屋にワインを置いたり、区は区内の飲食店や酒屋の人に現地のワイナリーの生産現場を見てもらう現地事業者交流会を実施するなど、積極的に交流が進んでいます。

連携自治体は、中野区民に観光などで訪れてもらおうと、様々なメニューを用意しています。

みなかみ町で開かれた中野の森看板除幕式

喜多方市は農家民宿を20％割り引きで利用でき、協賛店で使えるお得なクーポン券の配布を区役所で行っています。常陸太田市は貸し切りバスで市内を観光する団体旅行に対し、助成を行っています。今年７月からは、加盟店での観光・宿泊・食事・買物に使える５千円分のプレミアム付き旅行券を３千円で販売しました。

みなかみ町では、中野区民には、提携する宿泊施設や体験施設の利用料金が10％割り引き。館山市は、たてやまファンクラブに加入すると様々な特典があります。

自然環境を守り育てる取り組みも

中野の森プロジェクトでは、森林資源を保有する連携自治体と連携して、現地の植林や森林整備の支援により得られるCO_2の吸収量によって、カーボン・オフセットを進めています。

２０１４（平成26）年度からはみなかみ町や土地所有者と５年間の協定を締結し、牧場跡地に設けた「中野の森」（約15㌶）で年間約６千本の植林を行っています。２０１５（平成27）年７月からは喜多方市と５年間の協定を締結し、間伐した森林によるCO_2吸収分のオフセット・クレジット（Ｊ―ＶＥＲ）を年間60㌧分（CO_2換算）購入することで、森林整備を支援しています。

ふるさと納税で地方と連携

中野区は昨年10月から、ふるさと納税の返礼品として、連携自治体の特産品などを導入しています。返礼品は、「なかの里・まち連携事業」に参加する連携自治体だけではなく、特別区全国連携プロジェクトに参加する自治体の特産品も含まれています。昨年度は約１９００万円の寄付がありました。寄付は、自治体間連携事業や哲学堂公園の整備費用などに活用しています。

返礼品を提供する地方側は、中野区へのふるさと納税で寄付金が入るわけではありませんが、地元の特産品が使われ、ＰＲにつながります。

中野区にふるさと納税すると、甲州ウイスキーが返礼品に

中野区の担当者は「ふるさと納税は歳入源というより、中野区と連携する地方都市の経済活性化につながるのが狙い」と話します。

連携の肝は顔の見える関係

中野区となかの里・まち連携自治体は、日帰りで中野区と行き来できる基礎自治体であることが共通点です。常陸太田市で朝採れた新鮮な野菜がその日のうちに中野区内のスーパーや商店街で手に入るのも、この距離が利点です。

なかの里・まち連携自治体との付き合いは、行政主導ではなく、地元の生産者と中野区のスーパーや商店街、飲食店など民間交流がベースです。住民が主役で、行政はあくまで黒子役に徹します。

住民同士が顔の見える関係を構築し、中野区を経済交流の拠点として地方都市の経済活性化に寄与していく。それが、区民にとっては第二のふるさとづくりに結び付くかもしれません。「なかの里・まち連携事業」は、中野区を拠点として連携都市との顔と顔が見える太いパイプをこれからも構築していくことでしょう。

2017 東北復興大祭典　なかの

ねぶたと棟方志功で震災復興支援

日時 2017年10月28日㈯ 29日㈰

会場 中野サンプラザ広場、区役所前広場、中野駅北口暫定広場など

東日本大震災や熊本地震で被災した地域への継続的な復興支援のため、被災各県の復興の歩みや現状を紹介。東北６県や熊本県の農産物・工芸品、グルメ品などの販売と観光・文化などを発信します。ねぶたの運行をするほか、東北各県、都市の主要行事のＰＲも行います。

棟方志功サミット in 中野

「飛躍の地・中野～大和町時代の棟方志功～」

サミット 10月29日㈰ 10：00～正午（基調講演とパネルディスカッション）
特別企画展 10月25日㈬～31日㈫ 10：00～19：30
場　所 いずれもコングレスクエア中野

棟方志功ゆかりの自治体である青森（あおもり）市（誕生の地）、中野区（飛躍の地）、倉敷（くらしき）市（信頼の地）、南砺（なんと）市（成熟の地）、杉並区（大成の地）の３市２区の首長によりサミットを開催します。